第二十六講 漢文の読解②

Step 1

一 次の【漢詩】を読んで、あとの(1)~(3)に答えなさい。

【漢詩】

秋思　張籍

洛陽城裏秋風を見る
家書を作らんと欲して意ひ万重
復た恐る怱怱として説きて尽くさざるを
行人発するに臨みて又封を開く

洛(注1)陽城裏見秋風
欲作家書意万重
復恐怱怱(注2)説(注3)不尽
行人臨発又開封

（注1）洛陽城裏……洛陽の町中。洛陽は河南省の都。筆者は故郷を離れて洛陽にいる。

（注2）　怱怱……慌ただしい様子。
（注3）　説……言う。

(1)　ある生徒が、【漢詩】の内容について次のようにまとめました。［A］、［B］に入る適切な内容を、［A］は十字以内で、［B］は十五字以内で、それぞれ書きなさい。

洛陽の町中に、秋風が吹く頃になった。［A］を書こうとするが、さまざまな思いが重なる。慌ただしく書いたので、［B］のではないかとまた心配になり、手紙を託す旅人が出発するとき、もう一度手紙の封を開いてしまう。

A［　　　　　　　　　　］
B［　　　　　　　　　　　　　　　］

(2)　行人臨発又開封に、書き下し文を参考にして、返り点をつけなさい。

行　人　臨（ミテ）　発（スルニ）　又　開（ク）　封（ヲ）

(3)　【漢詩】にこめられた思いとして最も適切なものを、次の1〜4の中から一つ選び、その番号を書きなさい。

1　惜別　　2　博愛　　3　悔恨　　4　望郷

［　　］

【青森県】

Step 2・3

二 次の李白（りはく）の漢詩を読んで、1〜5の問いに答えなさい。

【Ⅰ】 ＊汪倫（おうりん）に贈る

李白舟に乗つて＊将（まさ）に行かんと欲す
忽（たちま）ち聞く岸上＊踏歌の声
＊桃花潭（たん）水深さ千尺
及ばず汪倫我を送るの情に

李白乗舟将欲行
忽チ聞ク岸上踏歌ノ声
桃花潭水深サ千尺
不レ及バ汪倫送ルノレ我ヲ情ニ

【注】
＊汪倫……李白の友人の名前
＊将に……今にも
＊踏歌……足で地を踏んで調子を取って歌うこと　またその歌
＊桃花潭……川の名前　潭は水が深くよどむところ

【Ⅱ】　黄鶴楼（くわうかくろう）にて孟浩然（まうかうねん）の広陵に之（ゆ）くを送る

故人西のかた黄鶴楼を辞し
煙花三月揚州（やうしう）に下る
孤帆の遠影碧空（へきくう）に尽き
惟（た）だ見る長江の天際に流るるを

故人西ノカタ辞シ二黄鶴楼ヲ一
煙花三月下ル二揚州ニ一
孤帆ノ遠影碧空ニ尽キ
惟ダ見ル長江ノ天際ニ流ルルヲ

【注】
＊黄鶴楼……長江のほとりにあった高い建物
＊揚州……長江下流の都市　広陵のこと
＊惟……「唯」と表記される場合もある
＊天際……空の果て

Step 2

1　【Ⅰ】【Ⅱ】に共通する漢詩の形式を、**漢字四字**で書きなさい。

Step 2

2 【Ⅰ】の李白乗舟将欲行に、返り点と送り仮名を補うとき、書き下し文を参考にして、解答欄の□に返り点を、︹　︺に送り仮名を書きなさい。

李　白　乗□︹　︺舟︹　︺将ニ　欲□︹　︺行︹　︺

Step 2

3 【Ⅱ】の詩の中で「別れを告げる」の意味で用いられている**漢字一字**を、抜き書きしなさい。

□

Step 3

4 【Ⅰ】【Ⅱ】の書き下し文に共通して見られる表現技法として適するものを、次のア〜エから一つ選んで記号を書きなさい。

ア　対句法　イ　反復法　ウ　倒置法　エ　体言止め

□

Step 3

5　次の表は【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩を比較して、まとめたものである。後の⑴～⑶の問いに答えなさい。

項目＼題	汪倫に贈る	黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る
立場	李白が〔　a　〕立場	李白が〔　b　〕立場
情景	舟が出ようとすると、岸辺から急に、汪倫の声かけで集まった村人たちの歌声が聞こえてくる	花咲き霞(かすみ)たなびく三月、友の乗った一艘(そう)の舟の帆が〔　c　〕、青空の中に消えていく
感動の中心	桃花潭の水深に比べて〔　d　〕に対する感謝の思い	長江の広がりと、それによって際立つ言いようのない孤独感

⑴　【Ⅰ】【Ⅱ】の漢詩は、ともに「送別」をテーマによんだものである。作者の立場の違いが明確になるように、表の〔　a　〕〔　b　〕に適する語句を、それぞれ**五字以内**で書きなさい。

a

b

(2) 表の〔 c 〕に適する内容を、**十字以内**で書きなさい。

(3) 表の〔 d 〕に適する内容を、作者が何に感動したかが分かるように、**十五字以内**で書きなさい。

【秋田県】

〈Note〉

第二十六講　漢文の読解②

Step 1

一

解答

(1) A、家族にあてた手紙（または、故郷にあてた手紙）（8字）　B、思いを言い尽くせていない（または、言い残した思いがある）（12字、または10字）（それぞれ同意可）　(2) 行人臨ミテレ発スルニ又開クレ封ヲ　(3) 4

解説

(1) A、「家書」の意味が入る。ここでの「書」とは手紙を指す。B、「説きて尽くさざる」ということを心配している。

(2) 一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

(3) 「家書を作らん」と欲し、その思いを言い尽くしたいという気持ちを表している。

Step 2・3

二

解答

1、七言絶句　2、李白乗ツテレ舟ニ将（ニ）欲スレ行カント　3、辞　4、ウ　5、(1) a、見送られる　b、見送る（それぞれ同意可）

(2) 次第に遠ざかり（同意可）　(3) さらに深い汪倫の心づかい（12字）（同意可）

解説

1、一句が七文字で、四句からなる漢詩である。

2、一字戻って読む場合には「レ点」を、二字以上戻って読む場合には「一・二点」を用いる。

3、「辞する」は「別れる」という意味で用いられている。
4、Ⅰでは「岸上踏歌の声」と「忽ち聞く」、「汪倫我を送るの情に」と「及ばず」の順番が入れかわっている。Ⅱでは「長江の天際に流るるを」と「惟だ見る」の順番が入れかわっている。
5、(1) Ⅰは、李白が舟に乗って行こうとしているときによんだ詩であり、Ⅱは、孟浩然が広陵へ行くときに李白がよんだ詩である。(2)「孤帆の遠影」が「碧空に尽き」とある。舟の姿が遠くに見えるようになり、やがて青空に消えて見えなくなる様子が表されている。(3) 桃花潭の深さが、汪倫の自分を送る気持ちに及ばないということであり、汪倫の気持ちがそれだけ深いことを言ったものである。

口語訳

Ⅰ、李白は舟に乗って今にも行こうとしている。突然、岸から足で調子を取って歌う声が聞こえる。桃花潭の深さは千尺もあるが、汪倫が私を送る気持ちの深さには及ばない。
Ⅱ、旧友が西の方角の黄鶴楼に別れを告げ、花が煙るように咲く三月に広陵へ下っていく。一そうの舟の帆の遠影が青空に消えていき、ただ長江が空の果てに流れるのを見るだけである。